

## 「海洋国家プロジェクト構想」(協同組合通信)14.9.17

多感な学生時代( 高校から大学前半 )に、あるいは 成人前 に、一度は体験航海を国家事業で行うプロジェクトを推進する私案である。

どこか背骨を無くし、自信喪失気味の平成の我々に出きる事をしておきたい。

今は、日本が三流国家になるかも知れない瀬戸際の気がする。世界一・二の債権国家としての実力の正しい評価ではないが、国際的な格付けでは、既に三等国である。

我が国にまだ資産がある今、次世代にしっかりとバトンを渡すことを真剣に考える必要がある。

グローバル時代を迎えた今。親に頼らず、自分で考え、一人の力でどこでも生きて行ける、物怖じしない子供たちを育てたい。 国家で孝子を育てるのだ。

情けを知った強い子は、必ず善を行っていることを歴史が教えている。

「 情けは人の為ならず 」きっと税金にお釣りがくるほどの人材が育つと思う。

総合学習やボランティア活動の一環でも良い。

乗船する若者は無料だが、きっちりと国に役立つ作業や奉仕を対価として、義務づける。船内で徹底的にディベートをやると良い。

外洋に出ると、そこには世界有数の広大な 経済水域 があるのを実感するだろうし、 豊富な潜在水産資源 があることを知る。

何も国内に限らず、海外の子女も(こちらは有償)乗つけるのだ。

外貨もしっかり稼げばいいし、ODA予算の一部振替で国際交流も行える。

言わば、「 現代版平成の遣唐使 」だ。

その気になれば、幸いなことに、サポートする優秀な海の男や女が日本に沢山いる。

海洋ビジネスと新規の雇用も必ず創出できると考えている。

「 国造りは人作り 」だ。若く純粋なうちに、 鉄が熱いうちに鍛えたい。

初当選の国会議員 にも外洋航海を義務づけたい。

これが実現できると、確実に永田町が変わると確信している。

効果の不明な外遊などより、はるかに国家と国民のためになると考える。

議員には、一部の負担金とレポートも課すと良い。選挙民として、国のリーダーには、何よりも国家を想う気概と健全な見識を求めたい。

「言った、言わない」などという情けない国会が確実に変わるだろう。

( 気象情報システム株式会社 高津 敏 )